



ろうさい病院 つうしん

発行所: 中部ろうさい病院

〒455-8530 名古屋市港区港明1-10-6
<http://www.chubuh.rofuku.go.jp/>

TEL: 052-652-5511
FAX: 052-653-3533

院長代理就任のご挨拶 - 継ぐもの繋ぐもの -



院長代理 加藤 文彦

吉田純前院長の後任として、本年1月1日をもちまして院長代理に就任いたしました。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

昨年末に院長代理をお引き受けすることが決まった頃、ある記事が中日新聞サンデー版に掲載されていたので、まずそのお話しから始めます。皆さん、「得月楼」という料亭の名前はご存じでしょうか？文政11年から昭和19年まで、納屋橋にあった料亭です。記事に載っていたのは得月楼の御子孫が経営・販売されている「奈良漬け」の紹介でした。現在、得月楼の血統を嗣がれた方々は料亭を経営しておらず、食品加工業を営んでいるとのこと。

一方、得月楼の建物は今も納屋橋の南西に残っていて、鳥料理屋となっていますが、料理に関しては得月楼とは全く繋がりがありません。すなわち、得月楼の建物のみを継がれたわけです。では得月楼の料理は途絶えてしまったのかというと、そうではなくて暖簾分けした店が二つあります。一つは予約を取ることが名古

屋で最も難しいことでも有名な鍋料理屋で、納屋橋の北西にあります。もう一つは納屋橋のすぐ南西にある鰻と鳥料理の店です。この二つの店は得月楼の料理を継がれたということになります。

「つぐ」という言葉に漢字を当てると「嗣ぐ」が「継ぐ」になります。「嗣ぐ」は血統が繋がった場合であり、「子孫を授かる」ことが必須条件です。一方、「継ぐ」は物品や教え・学問・技術などが繋がった場合であり、社会や組織の多くはこの形で繋がっていきます。人の世は色々なものを継いで、過去から未来へ繋がっていきますが、この中で最も大切なものは「心」や「志」ではないでしょうか。当院でも堀田饒元院長や吉田純前院長が当院に「心」を寄せて、「志」を持って諸事にあたられた事と推察いたします。私もそれを受け継いで今後の病院運営にあたりたいと思いますので、よろしくお願ひ申し上げます。

新しい年を迎えて

副院長
小林 建仁



先生方には日頃より病診連携を通じて、多大なご支援をいただき誠にありがとうございます。当院は地域医療支援病院として承認されて以降、地域の先生方との様々な関わりの中で、患者さんの紹介、逆紹介を強く推進してまいりました。その中でまず当院から逆紹介を積極的に行っていこう。これが地域医療を支える当院の使命と考え、Uターンはもちろんのこと、Iターン（紹介状なしでの当院初診後の逆紹介患者）を増やしていくことを目標にしてきました。その結果、Iターンは昨年比月平均約470件を超えており、逆紹介についても昨年度より月平均で50件以上増え、その約80%を港、熱田、中川、南区の先生方のもとに紹介するまでになってまいりました。今後も引き続き逆紹介推進の姿勢を堅持いたします。

平成25年4月以降、地域医療連携室のスタッフが室長を含め若い世代へと引き継がれていきます。理念もまた引き継がれます。これまで寄せられました先生方のご厚情に深く感謝いたしますとともに、次のスタッフへの変わらないご支援をよろしくお願い申し上げます。

新しい年を迎えて

副院長
佐野 隆久



今年は政治体制も民主党から自民党に変わり、景気対策、雇用問題など期待すること大であります。年初より海外でのテロ事件が勃発し、いろいろ多難な年になることを予感いたします。医療についても多くの問題が山積いたしておりますが少しでもよい方向に変革していく努力が求められております。

当院もいろいろな面において変革の年になると予想されます。

このような年に当たりまして、当院は昨年末に前院長が退職し、本年より加藤文彦副院長が院長代理として中部ろうさい病院を率い職員一丸となり皆様のご期待に添うべく努力をいたします。各方面の皆様のご支援、ご鞭撻の程よろしくお願いいたします。

リニアックの導入について

放射線治療専門放射線技師
放射線治療品質管理士 坂本 享久



このたび、当院では、放射線治療装置が更新され「高精度放射線治療」が可能な施設となりました。ただいま、今春の稼働に向けて最終調節を行っています。地域の皆様にもご理解頂けるように、放射線治療について一部ご紹介させていただきます。

放射線治療は、癌の治療法として外科手術・化学療法と並ぶ治療法の一つです。現在の放射線治療は、リニアックという「高精度放射線治療装置」により行われることが主となっており、今まで以上に、低浸襲で精度の高い治療ができるようになりました。このような癌治療以外にも、癌に伴う痛み、出血などの症状を和らげる緩和医療にも効果を発揮しています。放射線治療は、細胞分裂の盛んな細胞に対して効果が大きく、分裂の盛んな癌細胞に、より大きな影響を与えます。放射線は、癌細胞のみならず正常細胞にもダメージを与えます。しかし、癌細胞はダメージに対する回復能力が乏しいため、放射線を分割照射することにより、正常細胞にはダメージから回復する時間を与えて、ダメージから回復できない癌細胞だけを死滅させています。副作用が少ない治療法とはいえ放射線を照射する部位や患者さんにより副作用は異なります。副作用を少なくするために特殊な固定具を用いて照射位置の誤差を低減させ、腫瘍あるいは正常臓器の移動を制御することにより放射線照射範囲を最小化し、また、コンピューターによる最適化を施して、腫瘍に近接する正常組織

の線量だけを下げ放射線を投与方法（強度変調放射線治療：IMRT）といったものも可能になりました。

実際の治療の流れとしては、①放射線医による診察②放射線治療のターゲットの位置を決定するためのCT撮影③放射線治療計画（CTで得られた画像情報をもとに医師・診療放射線技師が、照射する範囲、放射線のエネルギー、量などを決定）④放射線治療の開始（台上で、照射範囲がずれないように毎回同じ体位をとりまします。そのための固定具を作成する場合があります。）となります。

今回導入された当院の放射線治療装置は、バリアン社製の高精度放射線治療機器「Clinac-ix」で使用放射線はX線および電子線となります。今までの装置との違いは、照射位置精度の大幅な向上とターゲットへの線量集中がより高度にコントロールできるようになったことです。このため、腫瘍への線量を増加させ正常組織への線量を減少させることが可能となり、患者様のQOLを今まで以上に損なわない治療法となっています。（IMRTによる治療もできる装置です。）

今後も癌治療の診療拠点病院として安全で高精度な治療を目指していきたく思いますので御高配のほど宜しくお願いいたします。

また、放射線治療についてのご質問がありましたら、お気軽に声をかけてください。

連携室だより

診療科の体制変更について

産婦人科：25年1月から部長退職により、分娩件数を30件/月程度に制限せざるを得ない状況となりました。

急な里帰り出産や分娩保証金の手続きが遅延する患者さんについては、当院で対応できない場合があります。

皮膚科：25年4月医師退職に伴い、皮膚科診療を制限せざるを得なくなります。

2月から皮膚科初診の患者さんについてお受入ができなくなります。

また、現在皮膚科を受診している患者さんについても、症状が落ち着いている患者さんは、かかりつけ医へご紹介させていただきます。

連携医療機関先生や、地域のみなさまには、当面ご不便をおかけいたしますが、何卒ご理解とご協力をお願いいたします。

病診連携セミナー・意見交換会を実施いたしました

平成24年度病診連携セミナーを2月2日(土)に、ローズコートホテルにて開催いたしました。

今回のセミナーでは、田中 宏太佳リハビリテーション科部長により「中枢神経障害患者の医学的管理と包括的リハビリテーションについて」の演題にて実施いたしました。

急性期医療の最前線での摂食嚥下障害についてのリハビリ、中枢神経障害の合併症への対応について講演を行い、連携医療機関の先生方の多数の出席をいただきました。

セミナー終了後、セミナーと同時開催いたしました、病診連携システム運営協議会にご出席いただきました先生方も加わり意見交換会をいたしました。

日頃、お世話になっている連携医療機関の先生方と、当院の診療科医師、スタッフとの顔がみえるなかでの意見交換会では、さまざまなご意見をいただきました。

次回は夏期に病診連携セミナーを開催予定です。先生方の多数のご参加をお待ちしています。

医師交代

☆辞職（平成24年12月31日付）

吉田 純

院長

石坂 貴彦

外科医師

加藤 千豊

副院長兼産婦人科部長事務取扱

当院の理念

皆さんとの出会いを大切にし、苦しみを分かち合い、健康で潤いある生活を送れるよう職員一同努めます。

当院の基本方針

- ・医療の質の向上と安全管理の徹底
- ・生命の尊厳の尊重と患者さん中心の医療
- ・人間性豊かな医療人の育成と倫理的医療の遂行
- ・地域社会との密な連携と信頼される病院の構築
- ・災害・救急医療への積極的な貢献と勤労者に相応しい高度医療の提供

☎地域医療連携室

（平日 8：15～19：30）

052-652-5950 (TEL)

052-652-5716 (FAX)

室長：小林 建仁（副院長）

佐野 隆久（副院長）

事務担当：今関 信夫・内藤 遵子・金井 久実